

# 学 校 運 営 協 議 会 議 録

開催日時	令和7年11月21日（金） 10時00分～12時00分
会 場	北海道小平高等養護学校 視聴覚室
項 目	概 要
	司会：地域コーディネーター 高橋知希
1 教頭挨拶	教頭による挨拶（教頭：三浦智子）
2 説明Ⅰ	令和7年度 本校の防災に係る取組について（総務部長：牧野文彦） スライドを活用して「一日防災学校」等の防災に係る取組について説明した。
3 説明Ⅱ	本校における危機管理対策について（生徒指導主事：林和憲） スライドを活用してクマ出没に係る対策や対応方法について説明した。また、本校の対策を確認いただくとともに、協議で御意見等を頂戴できるよう危機管理マニュアルを配布した。
4 協議	<p>・出席いただいた委員全員で協議を実施した。 [防災に係る実情について]</p> <p><b>地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年、台風の影響で地域に被害が出た。</li> <li>・平成16年、地震が起きたときには家屋の倒壊等はなかったものの、橋がずれるなど被害が甚大であった。地震は活断層が近辺にあることから、今後も起こりうることが予想されるため、過去の出来事から検証しての備えが必要である。</li> <li>・被災の状況によっては指定された避難所へ移動することが困難な場合もあるため、様々な状況を想定した訓練等が重要となる。</li> <li>・群来るも避難所の役割を担っている。</li> </ul> <p><b>鬼鹿小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼鹿幼稚園と合同で避難訓練を行う機会を設けている。</li> <li>・津波がきた場合には2階に避難し、それでも避けられない場合には山へ避難することになっている。</li> </ul> <p><b>小平中学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小平幼稚園と合同で避難訓練を行う機会を設けている。</li> <li>・避難者を受け入れることになっていても、システムや体制が整っているかを再確認する必要がある。</li> </ul> <p><b>更生園</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化も進み移動が困難な利用者さんも増えていることから、避難はマイクロバスで行うことができるようにしている。</li> <li>・免許保持者は限られていることが課題ではあるが、バスを高等養護に貸し出すこともできるのではないかと思います。</li> <li>・移動が可能な利用者さんは1日防災学校に参加させていただき有意義だったことから、今後も継続して参加するなど連携を継続していきたい。</li> </ul> <p><b>本校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所として指定されていることから「避難者を受け入れるシミュレーション」も大切だが、群来るに避難することになった場合に「本校生徒の安全を確保しつつ地域の方々の避難も先導する」等の訓練も必要ではないか。</li> </ul>

	<p>〔危機管理対策について〕</p> <p><b>地域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマの出没が全道でも取り上げられ話題になっているが、昔から近隣で頻繁に出没している。地域によって大きさなど個体差があり、出没しやすい場所とそうでない場所もある。また、「クマが出た。」と認識する線引きが難しい。</li> <li>・クマに出くわしたとき逃げる対応が適切かどうか、対処法を再確認する必要がある。</li> <li>・大人が付き添って登下校する対応でもクマに出くわした際に安全が確保できない。今後各自治体でも対応について熟議が進むと予想されることから、行政との連携や情報共有が必要ではないか。</li> <li>・生徒の帰省帰舎路は「道路維持」のために年1回草刈りを実施しているかと思う。クマ対策となると「有害鳥獣」の予算になるかと考えられるため、学校から発信していく必要があるかもしれない。</li> </ul> <p><b>保護者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で帰省帰舎時の対応などについて検討し実践してくれているため安心感がある。一方で、突然出くわす可能性は否定できず、子どもたちが冷静にかつ臨機応変に対応できるとも限らないため不安もある。</li> <li>・災害発生時や緊急時の対応が求められる際に、御家庭の状況や居住地区によっては急ぎの迎えが難しい場面もあることから、まとめて帰省できる方法などについて早急に検討してほしい。</li> </ul> <p><b>教育関係者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性や、学校と地域との連携具合がそれぞれ異なるが、情報共有は改めて大切かと思われる。</li> <li>・例えばクマと対峙した場面を想定した学習では、「どこに連絡するか」生徒の特性を踏まえて理解できるよう指導していく必要がある。</li> </ul> <p><b>本校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマと出くわさないことが第一だが、出会ってしまう可能性があることから未然防止できる策について検討していく必要がある。</li> <li>・生徒がクマと対峙したときの具体的なシミュレーションを学習活動として取り入れ、具体的に指導していくことを検討していく必要がある。</li> </ul>
5 見学	<p>授業見学</p> <p>1 学年：作業学習、2 学年：ライフキャリア、3 学年：国語の学習の様子を見学した。</p>
6 教頭挨拶	<p>教頭による挨拶（教頭：三浦智子）</p>